

平和祈念展示資料館 特別展示

シベリア抑留絵画展

冬と夏を描く

入場無料



国豊（明風）

九段生涯学習館2階 九段ギャラリー

(東京都千代田区九段南 1-5-10)

令和元年

9.25[水] → 10.1[火]

9:00 - 18:00

主催：平和祈念展示資料館（総務省委託）

後援：千代田区

協力：昭和館、しょうけい館

田中武一郎（死闘を運ぶ）



東京メトロ・都営地下鉄「九段下」駅6番出口



会場アクセス

東京メトロ東西線・半蔵門線、

都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車 6番出口前

※九段生涯学習館には駐車場がありません。近隣のコインパーキングをご利用いただくか、公共交通機関でご来場ください。

冬と夏を描く

入場
無料



古田卓造（ハバロフスクの街角）



佐藤清 「戦場の花」



四國五郎（丸太運び）



横尾淳（冬の収容所）



田中武一郎（伐採）

終戦後、シベリアをはじめとする旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食料と劣悪な生活環境の中、過酷な強制労働に従事させられた“戦後強制抑留者”は約60万人にのぼります。そのうち、約6万人が栄養失調や伝染病などで亡くなりました。

生きて帰国を果たした抑留体験者の中には、抑留の事実を後世に伝えるため、あるいは亡くなった戦友の鎮魂のため、自身の体験を絵画に残した人たちがいます。

シベリアの冬は長く、10月から5月のはじめ頃まで続きます。そのため、多くの作品には、雪や氷に覆われた厳しい寒さが描かれています。一方で短い夏の季節を描いた作品もあります。野草やキノコ、ジャガイモなどの収穫がある夏は、抑留者にとって心安らぐ季節でした。

本展では、シベリアの凍てつく冬と短い夏の情景を描いた作品を紹介し、抑留者たちが過ごした季節をたどります。

昭和館、しょうけい館との連携企画

九段生涯学習館に近接している昭和館、しょうけい館では、この特別展示と連携した企画を実施します。

昭和館

ニュースシアター（1階）での抑留・引揚げに関するニュース映画等の上映のほか、図書室（4階）では、関連書籍の紹介コーナーを設置します。

千代田区九段南1-6-1 Tel:03-3222-2577

しょうけい館

シベリア抑留を経験された戦傷病者の手記などの関連図書を、2階の特設コーナーで紹介します。

千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア九段下
Tel:03-3234-7821